

Understanding of Trade

Stantcheva (2023)

資料作成: 田中鮎夢

概要

- ▶ 本論文は、人々が貿易と貿易政策をどのように認識・理解するか、およびどのような要因が異なる貿易政策への支持を形成するかを新たな視点から解明する。
- ▶ 大規模サーベイと実験を用いた3つの主な発見：
 1. 消費者利益より雇用リスクが政策観に強く影響する。
 2. 人々は自己利益を超えた効率性・分配への関心を持つ。
 3. 貿易への個人的な経験・曝露が、直接・間接に政策観を形成する。

1. はじめに

研究の背景と動機

- ▶ 経済学者の間では自由貿易の便益に関して広いコンセンサスがある一方、米国では保護主義的な見解が根強い。
- ▶ Gallup 調査（2021 年）：約 3 分の 1 の米国人が「貿易は米国経済への脅威」と回答。
- ▶ 貿易がもたらす効率性・分配への影響は実証的に確立されているが、人々がそれをどう認識しているかは未解明。

分析の枠組み (Figure 2)

FIGURE 2: THE FACTORS SHAPING VIEWS ON TRADE POLICY

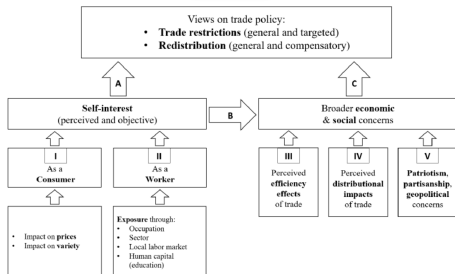


Figure 1: 貿易政策観を形成する要因

- ▶ 左パネル (自己利益) : 消費者利益 (Box I)、雇用リスク (Box II)
- ▶ 右パネル (広義の関心) : 効率性 (Box III)、分配 (Box IV)、地政学 (Box V)
- ▶ Arrow A: 自己利益 → 政策観 (直接)
- ▶ Arrow B: 自己利益 → 効率・分配認識
- ▶ Arrow C: 効率・分配認識 → 政策観

2. サーベイのデザインとデータ

データ収集

- ▶ **サーベイ 1** (1,771 名) : 2019 年 8~9 月、全米代表サンプル。
- ▶ **サーベイ 2** (2,148 名) : 2020 年 11~12 月、労働力人口に特化。
- ▶ **検証サーベイ** : 2023 年 7 月、質問の頑健性テスト。
- ▶ **プラットフォーム** : Qualtrics、調査会社 Bilendi を利用。

実験デザイン（サーベイ 1）

情報提供ビデオによる 4 つの処置群：

1. **分配効果ビデオ**：輸出入の雇用・賃金への影響と、政府の補償政策を説明。
2. **効率性効果ビデオ**：貿易による生産性・競争力・技術拡散への影響を説明。
3. **エコノミストビデオ**：分配と効率性の両面を踏まえたトレードオフを説明。
4. **統制群**：ビデオなし。

実験デザイン（サーベイ 2）

情報を与えないプライミング処置：

- ▶ **消費者プライミング**：「貿易のおかげで購入できる外国製品を思い浮かべてください」など、消費者としての影響を問う。
- ▶ **雇用リスクプライミング**：「今後 10 年で外国との競争によりあなたの仕事がオフショアされる可能性は？」など、労働者としてのリスクを問う。

3. 貿易に関する知識と政策観

貿易政策観の概観

- ▶ 63%が「自由貿易推進・貿易障壁の削減」を支持（一般的な貿易制限は不支持）。
- ▶ 一方、特定分野での保護には支持が多い：
 - ▶ 食料安全保障のための食品輸入制限：40%
 - ▶ 幼稚産業保護：54%
 - ▶ 食品・自動車などの主要消費財の保護：78%

補償的再分配への支持

- ▶ 53%が「直接支援・再訓練プログラム」を最善の政策と考える。
- ▶ 37%が「貿易で被害を受けた労働者への直接所得支援」を支持。
- ▶ 貿易障壁による輸入制限を最善策とする回答者は36%にとどまる。

貿易に関する知識

- ▶ 約 80%が関税の意味を正しく理解している。
- ▶ 輸入割当（クォータ）の意味を知るのは約 50%。
- ▶ 最大の輸入相手国：71%が**中国**と正答。
- ▶ 最大の輸出相手国：正答（カナダ）は 19%のみ。44%が中国と誤答。
- ▶ 68%が「比較優位があれば輸入が合理的」という考え方に同意。

調査回答の妥当性（実際の政治行動との相関）

- ▶ 検証サーベイでは「連邦議会への陳情」への署名意欲を追加調査。
- ▶ 自己申告の政策観と**陳情署名意欲**の間に**有意な相関**を確認。
- ▶ 「貿易障壁強化」陳情の署名者 → 自由貿易への反対・輸入制限への支持が高い。
- ▶ 「貿易被害者支援」陳情の署名者 → 再分配政策への支持が高い。

4. 消費者利益（拡散的） vs. 雇用リスク（集中的）

貿易への個人的影響の認識

- ▶ **消費者として：**
 - ▶ 貿易が自分の購入品の価格を下げたと思うかは**二分**されている。
 - ▶ 貿易が財の多様性を高めたという認識はやや多い。
- ▶ **労働者として：**
 - ▶ 自分のセクターや仕事が脅かされていると感じる：29%
 - ▶ 貿易が自分の仕事に悪影響を与えたと感じる：24%
 - ▶ 仕事がオフショアされる可能性があると感じる：19%

主観的曝露と客観的曝露の相関

- ▶ 主観的（自己申告）と客観的（職業・セクター・労働市場）の曝露指標は**有意に正相関**。
- ▶ 貿易への客観的な曝露が高い労働者ほど、自分が貿易により損害を受けたと感じる。
- ▶ ただし完全な相関ではない（職業・セクター指標は個人差を完全に捉えきれない）。

消費者利益は政策観に影響しない

- ▶ 「貿易が価格を下げた」という信念は、自由貿易支持と有意に相関しない。
- ▶ 消費者プライミング処置 → 自由貿易支持に変化なし。
- ▶ 消費者としての利益は拡散的・暗黙的であり、政策観への影響力は小さい。

雇用リスクは政策観に強く影響する

- ▶ 「自分は貿易により損害を受けた」「自分の職業・セクターへの曝露が大きい」ほど、自由貿易支持が有意に低下。
- ▶ 雇用リスクプライミング処置 → 自由貿易支持が有意に低下。
- ▶ 労働市場での損失は集中的かつ顕著であり、政策観に大きく影響する。

→ 消費者利益より雇用リスクが政策観を左右する。

5. 効率性 vs. 公平性と補償的再分配の重要性

効率性効果に関する認識

- ▶ 61%：「貿易は米国企業の競争力を高める」と回答。
- ▶ 69%：「貿易はイノベーションを促進する」と回答。
- ▶ 62%：「貿易は GDP 成長を生む」と回答。
- ▶ 67%：「双方の国が貿易から利益を得る」と回答。
- ▶ 効率性認識に**政党派別の大きな差はない**。

分配的帰結に関する認識

- ▶ 約半数のみが「貿易は総じて米国労働者を助けた」と回答。
- ▶ 79%：「貿易は特定セクターの失業・産業衰退の原因」と認識。
- ▶ 大企業（70%）・高所得者（61%）が貿易から利益を得たと考える一方、中産階級・低所得者が利益を得たと考えるのは20%程度。
- ▶ 63%：「貿易は格差拡大の主因」と認識。
- ▶ しかし62%：「適切な政策で貿易の損失者を補償できる」と回答。

効率性信念 → 自由貿易支持

- ▶ 貿易が効率性利益（イノベーション・競争力・GDP 成長）をもたらすという信念は、**自由貿易への強い支持と有意に相関。**
- ▶ **効率性効果ビデオ処置** → 自由貿易への支持が有意に増加。
- ▶ 効率性信念のある回答者は再分配政策も支持（効率性の恩恵を受けない人への補助として）。

補償可能性信念の決定的な役割

- ▶ 「貿易の損失者を補償できる」という信念が、**自由貿易支持の最も強い予測変数**。
- ▶ 分配への悪影響を懸念していても、「補償できる」と思えば自由貿易を支持する。
- ▶ **分配効果ビデオ処置**：自由貿易支持は変わらず、再分配支持が大幅に増加。
- ▶ →貿易政策の二つの側面（貿易障壁と補償的再分配）は人々の意識において**不可分**。

6. 貿易への曝露の直接・間接効果

曝露が広義の認識を形成する（間接効果・Arrow B）

- ▶ 「貿易により損害を受けた」と感じる回答者ほど：
 - ▶ 貿易がイノベーション・GDP 成長を促すとは考えにくい。
 - ▶ 貿易が米国労働者を助けているとは考えにくい。
 - ▶ 中産階級・小企業が貿易から利益を得たとは考えにくい。
 - ▶ 損失者を補償できるとは考えにくい。
- ▶ 客観的曝露（職業・セクター・地域労働市場）も同様の傾向。

Gelbach 分解：直接効果と間接効果の相対的重要性

主観的曝露の効果のうち「自由貿易支持への直接効果（Arrow A）」の割合：

曝露指標	直接効果の割合
主観的（自己申告）曝露	約 30%
ルーティン・オフショア可能職業	約 50～70%
セクター（貿易可能セクター）	約 84%

- ▶ 直接・間接の**両チャネルが重要**。
- ▶ 間接効果の主な媒介：「補償可能性信念」と「効率性信念」の差異。

教育水準の特別な役割

- ▶ 大卒者ほど：
 - ▶ 貿易の効率性効果を高く評価。
 - ▶ 分配の悪影響を軽く見る傾向。
 - ▶ 自由貿易・再分配の両方をより強く支持。
- ▶ 所得をコントロールしても教育の効果は有意。
- ▶ **教育は要素賦存（Heckscher-Ohlin）モデルを超えた影響を持つ**（Hainmueller and Hiscox, 2006）。

7. 結論と政策的含意

3つの主な発見

1. **消費者利益は拡散的・不明瞭**であり、政策観に影響しない。一方、**雇用リスクは集中的・顕在的**であり、自由貿易支持を低下させる。
2. 人々の政策観は自己利益だけでなく、**貿易の効率性・分配への広義の関心**によっても左右される。特に「損失者を補償できる」という信念が自由貿易支持の最重要予測変数。
3. 貿易への個人的曝露は、**直接**（自己利益・Arrow A）と**間接**（効率・分配認識の変化・Arrows B+C）の両チャンネルを通じて政策観に影響する。

政策的含意

- ▶ 貿易障壁（制限）と補償的再分配は不可分のセットとして語られるべき。
- ▶ 損失者への補償が実現・周知されない限り、分配への懸念は貿易制限支持・保護主義の台頭につながる（Blanchard and Tirole, 2021; Rodrik and Stantcheva, 2021）。
- ▶ 効率性の便益を分かりやすく説明する情報提供（教育）は、自由貿易支持を高める有効な手段となりうる。
- ▶ 貿易政策の設計において、経済的実態だけでなく人々の認識・信念を考慮することが不可欠。